

2026 年度入学者選抜 I 期

心理学実践研究学位プログラム 臨床心理分野

解答例

■ I.

- a. 経済的虐待 b. 高次脳機能障害 c. 司法面接 d. セルフネグレクト
e. 一次集団 f. 注意機能 g. 事象見本法 h. 補償
i. 負の強化（強化だけは×） j. リラクセーション k. 通級による指導（通級指導）
l. 分散 m. 多重関係 n. アンカリング o. 生成文法 p. アウトリーチ
q. 新近効果 r. 視床下部 s. 暴露反応妨害法（暴露療法だけでは不可） t. 医療観察（法）

■ II.

1. 回答のポイント

クライアントが未成年であるという理由だけで、カウンセリングの事実や内容等を親権者に伝えることは許されない。

2. 回答のポイント

①冷静さを保つこと

攻撃的発言に感情的に反応せず、落ち着いた態度を維持すること

②感情の理解

発言の背後にある不安や無力感に着目し、理解する姿勢があること

③具体的対応の記述

感情反映、言語化の援助、面接の目的確認など具体的な介入方法を述べていること

④心理職自身の感情の揺れ（逆転移）の自覚

自身の怒りや戸惑いを理解し、影響を最小化する姿勢が示されていること

⑤安全と信頼関係の維持

面接の場を安心できる空間とし、信頼関係を崩さないようにする配慮があること

3. 回答のポイント

二要因分散分析を実施するので t 検定は不要、脱落者や欠測値処理など、実際の分析対象者人数がわからない、うつ病の重症度などの交絡因子についての言及があると良い、介入前のうつ得点を共変量とした共分散分析、など。

4. 回答のポイント

①患者の同意を得る。

- ②主治医との連携。
- ③カルテを見たり、主治医や看護から情報を得たりして患者の背景を把握。
- ④自由で開放的で話しやすい雰囲気を作る。
- ⑤一人一人の主体性を支持する。
- ⑥相互交流を促進するような働きかけを行う。
- ⑦発言を強要したり批判したりしない。
- ⑧患者同士の諍いなどの場合における適切な介入。

■ III.

研究の目的および事前に設定された仮説を的確に把握した上で、提示された分析結果を正しく読み解き、仮説の成否を含めて論理的に説明する能力を評価することを意図して出題している。

著作物の著作権許諾処理の問題により解答または解答例を公表することはできない。